

シン・アーキテクトビルダー塾「京都府内の名建築を巡る視察ツアー」

設計力を高め、指名受注を目指す新
建ハウジング主催「シン・アーキテクト
ビルダー塾」の特別回として、京都府内
の名建築を巡る視察ツアーが10月7日・
8日の2日間にわたり開催された。参加
者の方は、塾長である大橋利紀さん
(Livearth × OhashiArchitects 両代表)
の解説を受けながら、建築の根源・美の
根源を、①表層：物理的な表現、②中層：
理念、思想、イデオロギー、③深層：無
意識、歴史的経験、宗教、文化、④基層：
風土的基層、風土的条件 — の4つの視
点で探求した。

今回のツアーでは、非公開、“一見さ
んお断り”、国宝など個人では入ること
のできない特別な場所が含まれている。
ツアーの開始にあたり大橋さんは「体
感を言語化(抽象化)し、「美意識」を転
用可能なモノとする」と呼びかけた。視
察のひとつ、源光庵では「悟りの窓」迷

いの窓」を通じて取り込まれる自然光
と、視線が導かれる感覚を体感した。図
面上の数値だけでは表現できない「間」
や「奥行き」を身体で感じ、情緒から発
生する自己の美意識を向き合う時間を

過ごした。頭で整理し、言葉にするプロ
セスを体感した。

同じモノを見ても「誰と見るか」で得
られるモノは大きく異なる。モノを見る
視点が異なるからだ。工務店経営者や

設計者同士が同じ場を共有することで、
異なる視点や解釈が交差し、自らの設
計思想を深めるヒントが生まれる。参
加者からは「名建築を体感することで
施主への提案に具体性が増した」「光と
影の扱い方を再定義できた」「視点の多
様性が刺激になった」といった声が寄
せられた。

4段階の認識の視点で、歴史文化、宗
教、食、暮らし、建築、体験価値を総合的
に味わうこのツアーは、毎回テーマを設
定して、注目する視点を変えながら実施
される。次回は2026年春の開催を予定
しており、「涵養(かんよう)」— 自らの美
意識を深く味わい育てる機会として企
画中。来年度の「シン・アーキテクトビル
ダー塾」、経営力×設計力×美意識によ
り、指名受注を目指すための実践的な
プログラムを準備中だ。



源光庵で体感した「悟りの窓」。単なる建築要素ではなく、光と視線を通じて心に働きかける仕掛け